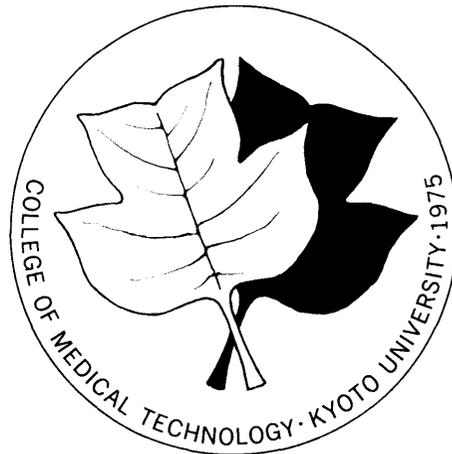


創刊に因んで—学ぶ者の喜び

主 事 富 田 仁

真理の探究，前人未踏の分野の開拓，もっと平易な言葉で言えば，不明のことを明らかにすることは，学ぶ者の醍醐味である。しかし，それだけでは自己満足にとどまるだけである。人間社会に生きている限り，それを公表し，多くの人からの批判と評価を受け，社会に役立たねばならない。たとえ，それは，ノーベル賞とか学士院賞とかには遠く及ばなくても，大きな夢を抱きつゝ，日常業務のどんな小さいことでも，未知のことを明らかにして，公表することは，学ぶ者の最大の喜びである。

何事でも，初期の段階には，あらゆる角度から多くの批判を受けても，とどまる所なく，努力し，前進して行けば，大きな幹になり，立派な花が咲くものと確信する。関係各位の学問の足跡が本誌であり，歴史の一頁である。



京都大学医療技術短期大学部シンボルマーク
(昭和56年7月決定)

短大の木と決定しているユリの木の花は美しく(愛と奉仕)，幹は黒くて力強い(心身健康)，葉は伴纏に似て活動的である。マークはその2枚の葉を白黒の陰陽で表わし，調和と協調の大切なことを示している(図案は，生物学担当の阪口吉蔵教授の作)。